修士論文 （要旨）
２０１１年７月

日本語学習動機の研究
－日本語学校に通う韓国人学習者を対象として－

指導　宮副ウォン裕子　教授

言語教育研究科
日本語教育専攻
２０９Ｊ３００６
柳田憲昭

目　次

第 1 章　はじめに
1.1　研究背景・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
1.2　研究目的・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
1.3　研究意義・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2
第 2 章　先行研究
2.1　動機の分類からみる動機研究・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4
2.1.1　統合的動機と道具的動機・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4
2.1.2　外発的動機と内発的動機・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 10
2.2　研究方法からみる動機研究・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 14
2.2.1　量的アプローチによる動機研究・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 14
2.2.2　質的アプローチによる動機研究・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 17
2.2.3　量的研究と質的研究・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 18
2.3　動機と動機づけ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 19
2.3.1　動機と動機づけの諸見解・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 19
2.3.2　動機と動機づけの定義・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 20
第 3 章　調査・分析
3.1　調査・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 21
3.1.1　調査概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 21
3.1.2　質問紙調査・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 21
3.1.3　インタビュー調査・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 22
3.2　分析・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 24
3.2.1　分析概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 24
3.2.2　理論的基盤・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 24
3.2.3　分析方法と分析手順・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 25
第 4 章　アンケート調査の結果と考察
4.1　分析対象者・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 28
4.2　分析結果・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 28
4.3　考察・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 31
第 5 章　インタビュー調査の結果と考察
5.1　分析対象者・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 36
5.2　「中心的動機」の結果と考察・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 36
5.2.1　分析結果・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 36
5.2.2　考察・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 40
5.3　「周辺的動機」の結果と考察・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 42
5.3.1　分析結果・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 42
5.3.2　考察・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 43
第 6 章　おわりに
6.1　結論・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 47
6.2　今後の課題・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 49
参考文献

要　旨

キーワード【日本語学習動機、中心的動機、周辺的動機、質的研究、構造構成主義】

第１章　はじめに

本研究は日本語学校に通う韓国人学習者の日本語学習動機に関する研究を行い、研究課題に挙げた３つの目的に沿った調査から課題解明を試みた。

第２章　先行研究

まず、日本語学習動機研究に関する先行研究を概観した。日本語学習動機に関する先行研究は多様な国・地域で報告されている。主要研究を研究枠組み・研究手法の差異により、分類した。研究枠組みでは「統合的動機」と「道具的動機」という動機の枠組みと「外発的動機」と「内発的動機」という動機の枠組みについていくつかの先行研究を挙げた。研究手法は「量的アプローチ」と「質的アプローチ」に分類し、それぞれの先行研究を考察した。「量的アプローチ」は、動機研究において多くの研究が行われてきた。一方、「質的アプローチ」は近年になってから動機研究において用いられるようになっていることがわかった。

先行研究を概観して動機研究分野においては、国・地域、調査対象者、調査機関、調査方法によって、研究結果が異なるといった傾向が見られることが確認され、動機研究分野においては多方面での研究の蓄積が必要とされていることが明らかとなった。先行研究の概観から、調査対象者は日本語学校に通う韓国人学習者とし、研究手法においては、「質的アプローチ」を採用することとした。

さらに、本研究では、「動機」と「動機づけ」の用語を整理し、諸研究者の述べる動機を「中心的動機」と捉え、動機づけを「周辺的動機」と捉えた。三矢(2000)の定義を借用し、本研究では「中心的動機」を「言語学習の目的、目標と直結した動機であり、目標言語や目標文化に対する学習者自身の価値観、考え方」と定義した。「周辺的動機」を「教材、教授法、教室環境、教師など言語学習環境に関連する動機」と定義した。また、本研究で「中心的動機」と「周辺的動機」を総合的に考察する際には「日本語学習動機」と記述することとした。

以上の定義を踏まえ、本研究では①日本語学校に通う韓国人学習者の「中心的動機」の解明、②日本語学校に通う韓国人学習者の「中心的動機」の時間的経過からの観察、③日本語学校に通う韓国人学習者の「周辺的動機」の解明の３つの研究目的を設定した。

第３章　調査・分析

調査は、都内の日本語学校に通う韓国人学習者 24 名を対象に行った。調査対象とした韓国人学習者は、2010 年 4 月に来日し、初級クラスに在籍する者に限定した。調査方法は、質的アプローチに沿ったデータ収集法を基に質問紙調査とインタビュー調査を行った。質問紙調査では、自由記述式によるアンケート調査を行った。質問紙調査は、2010 年 5 月上旬に日本語学校の授業後に質問紙を配布し、24 名の質問紙を回収した。インタビュー調査は、質問紙調査に回答し、インタビュー調査に協力が可能と答えた 10 名を対象とした。2011 年 6 月から 2010 年 10 月までの期間に 4 回のインタビューを行った。最終的に全 4 回のインタビュー調査に協力した調査対象者は 6 名であった。

本研究は、西條(2008)の提唱する「構造構成主義」を理論的基盤とし、調査・分析を行った。「構造構成主義」は、実質的な調査法や分析法ではなく、理論の枠組みを支えるメタ理論である。「構造構成主義」を理論的基盤として据えることにより、調査や分析を円滑に機能させることができると判断した。

分析方法は、西條(前掲書)の「構造構成主義」の唱える「関心相関的選択」に基づき、佐藤(2008)の「質的データ分析法」を選択した。理論を生成する研究に向いているとされることが選択の理由である。実際の分析にあたっては、「質的データ分析法」を援用し、「演繹的なアプローチ」と「帰納的なアプローチ」を併用して分析を行った。

第 4 章　アンケート調査の結果と考察

分析と考察の結果、「中心的動機」は 16 の下位の概念カテゴリーからなる 11 の上位の概念カテゴリーとして提示した。「中心的動機」の 11 の上位の概念カテゴリーは、「進学志向」、「仕事志向」、「日本文化理解志向」、「日本社会理解志向」、「日本大衆文化理解志向」、「親日志向」、「語学学習志向」、「限定的選択志向」、「新経験挑戦志向」、「モデルとの同一視志向」、「日本生活志向」から構成される。

第 5 章　インタビュー調査の結果と考察

「周辺的動機」は、23 の下位の概念カテゴリーの分類により、上位の概念カテゴリーが 7 つ構成された。上位の概念カテゴリーは、「学校要因」、「環境要因」、「言語要因」、「目標言語要因」、「目標要因」、「自己要因」、「他者要因」からなる。

第 6 章　おわりに

本研究の結果から、「中心的動機」と「周辺的動機」の概念モデルが構築された。さらに、「中心的動機」は変化ではなく、「修正」と「再構築」を繰り返し強化していくということが確認された。そして、「周辺的動機」の「自己要因」と「他者要因」が「中心的動機」に影響を与えることが明らかとなった。

参考文献

飯塚住子(2005)「日本語学校に通う留学生の動機づけの要因－半年間のネットワークの変化から－」『小出記念日本語教育研究会』13,39 - 54

磐村文乃(2004)「韓国人女子大学生の日本語学習動機と対日観」『2004 年日本語教育国際研究大会予稿集』発表 1,179 - 184

河先俊子(2006)「中国・韓国からの私費留学生の日本語学習動機についての研究－インタビュー調査による－」『アメリカ・カナダ大学連合日本研究センター』紀要 29,68 - 92

倉八順子(1992)「日本語学習者の動機に関する調査－動機と文化的背景の関連－」『日本語教育』77 号,129 - 141

小西正恵(2006)「3 動機・態度」津田塾大学言語文化研究所言語学習の個別性研究グループ編『第二言語学習と個別性－ことばを学ぶ一人ひとりを理解する－』春風社

西條剛央(2007)『ライブ講義　質的研究とは何か SCQRM ベーシック編　研究の着想からデータ収集、分析、モデル構築まで』新曜社

西條剛央(2008)『ライブ講義　質的研究とは何か SCQRM アドバンス編　研究発表から論文執筆、評価、新次元の研究法まで』新曜社

櫻坂英子、奥山洋子(2001)「韓国人の対日観と日本語学習動機の検討－大学生郡と成人郡の世代間の比較－」『日本語学報』47 集,76 - 91

佐藤郁哉(2008)『質的データ分析法：原理・方法・実践』新曜社

鄭惠卿(1995)「日本語学習の動機に関する韓国大学生の意識調査」『日本語教育学会秋季大会予稿集』123 - 128

千田昭予(2004)「非教室環境での日本語学習の動機づけ」『日本語教育学会春季大会予稿集』191 - 196

高岸雅子(2000)「留学経験が日本語学習動機におよぼす影響－米国人短期留学生の場合－」『日本語教育』105 号,101 - 110

中野敦(2003)「日本語学習動機と英語学習動機の比較調査－韓国の大学生の場合－」『日本語学研究』8 集,57 - 69

朴銓烈(2002)「日本大衆文化への関心と日本語学習」『総合的日本語教育を求めて』図書刊行会,428 - 439

文野峯子(1999)「学習過程における動機づけの縦断的研究－インタビュー資料の複眼的解釈から明らかになるもの－」『人間と環境－人間環境学研究所研究報告』3,35 - 45

守谷智美(2002)「第二言語教育における動機づけの研究動向－第二言語としての日本語の動機づけ研究を焦点として－」『言語文化と日本語教育』2002 年 5 月特集号,315 - 329

守谷智美(2004)「日本語学習の動機づけに関する探索的研究－学習成果の原因帰属を手がかりとして－」『日本語教育』120 号,73 - 82

守谷智美(2005)「研修生の日本語学習動機とその生起要因－ある中国人研修生グループの事

例からー」『日本語教育』125 号,106‐115
三矢真由美(2000)「能動的な教室活動は学習動機を高めるか」『日本語教育』103 号,1‐10
李受香(2003)「第二言語および外国語としての日本語学習者における動機づけの比較ー韓国人日本語学習者を対象としてー」『世界の日本語教育』13,75‐92